

2026

KOBE CITY COLLEGE of NURSING Graduate School

看護学研究科 大学院案内

公立大学法人
神戸市看護大学

〒651-2103
神戸市西区学園西町3丁目4番地
TEL.078-794-8085(教務学生課)
FAX.078-794-8086
<https://www.kobe-ccn.ac.jp>

SNSでも情報を発信中!!



公立大学法人
神戸市看護大学

さらに 上のステージを 目指したい。 だから、 いちかん。

“いちかん”の愛称で親しまれる神戸市看護大学。

大学院では、より実践志向が強く専門性の高い学びにより、
ハイレベルな看護実践力、管理・研究能力を身に付けることができます。

キャリアの 糧となる 3つの 「だから」

1

多様な分野・コースで 幅広い知識とスキルを習得

単科大学でありながら博士前期・後期課程を
備え、分野・コースも多岐にわたって幅広い選
択肢があるのが魅力です。また、研究に取り組
む上で必要な研究方法やアカデミック・ライ
ティングなどに関する共通科目も充実しており、
高度な学びを支えます。

2

地域と連携した “生きた学びの場”が豊富

地域に根ざした大学として、各分野とも教員の
指導の下、大学院生が主体となった地域連携
活動を数多く展開しています。例えば地域住民
を対象にした「ブレババ・プレママセミナー」
や「こころと身体の看護相談」などは、本学なら
ではの取り組みです。

3

高度で専門的な実習と 実践志向の研究が可能

実習は神戸市内はもちろん県外まで高度で専
門的な経験ができる施設が充実。また、学内でも
シミュレーターをはじめとする最新機器を用
いた授業で実践力を高められるほか、研究に
おいても実践志向の強いテーマに取り組める
環境が整っています。

CONTENTS

03 Message 04 博士前期課程 12 博士後期課程
14 修了生Voice、進路状況 15 学費・修学支援、入試情報

●学生の学年、修了生の勤務先・所属先等は2025年3月現在のものです。
●取材・撮影は新型コロナウイルス感染症対策を行いながら実施しています。
●講義や演習の名称・紹介内容は2025年3月現在のものであり、変更となる可能性があります。

Message



神戸市看護大学 学長
江川 幸二

少子高齢化による多死社会への移行、温暖化に伴う自然
災害、COVID-19のパンデミック、人工知能・ロボット技術
の進歩など、現代社会は激動の中にあります。本学の大学
院では、こうした多様化・複雑化する社会のニーズに対応
し得る人材育成を目指しています。博士前期課程では、高
度な看護実践や看護管理、教育・研究を遂行できる人材
育成を目的とし、博士後期課程ではヒューマンケアの視
点から看護における課題を分析し、新たな看護・保健医療
システムの構築や、理論的基盤の構築につながる研究を自
立して行うことができる人材育成を目的としています。その
実現のために公立大学法人として、中期目標・中期計画に
基づき地域社会に根ざした臨地・臨床や産官との緊密な
連携の下に教育・研究環境を整備し、学生のみならず教員
をも魅き付ける「マグネット・カレッジ」を目指して、不断
の改革を行っています。本学の大学院で、さまざまな高度実
践能力の修得や看護の知の探究を志す皆様をお待ちして
おります。



神戸市看護大学 研究科長
船越 明子

神戸市看護大学看護学研究科は、高度な専門性と実践
力を備え、次世代の看護学を牽引する専門職者・研究者・
教育者の育成を掲げ、2000年に博士前期課程、2006年に
博士後期課程を設立しました。地域に根ざした大学院と
して、実践・教育・研究が共に発展する循環型の教育を特
色とし、多くの優れた人材を地域に輩出してきました。大
学院進学の際はさまざまです。臨床現場の課題を解決
したい、実践能力を高めたい、関心のある現象を深めたい
等、誰もが自らの看護を見つめ直す必要性を感じる時が
あります。本学では、多様な背景やキャリアを持つ院生と熱
意に満ちた教員が互いに刺激し合い、学びを深めています。
大学院での学びと出会いは、一生の宝となることではし
ょう。実践の知に基づく新たな看護学の構築を目指し、共に
看護を探究しましょう。

博士前期課程



教育理念

本研究科博士前期課程は、地域に根ざした大学院として、変動するヘルスケアシステムに対応できる高度な看護実践、管理、教育研究能力を有する人材の育成を使命とする。

教育目標

本研究科博士前期課程は、グローバルな視野に立って地域社会や看護学の発展に貢献しうる看護学研究を推進し、専門性の高い看護実践を行うことのできる能力を有する高度専門職業人、管理者、教育研究者を育成する。

学生の多様なニーズに応える 2領域14分野4コース

2つの領域

■基盤看護学領域

高度専門職業人としての看護実践の理論的な基礎構築や、看護サービスを効果的に組織化するために必要な知識を提供します。

■実践看護学領域

進化する高度医療や変化する社会情勢、地域ニーズに対応できる質の高い看護ケアを研究・開発し、実践活動に生かせる教育研究者、高度専門職業人の育成を目指します。

4つのコース

■研究コース

全ての分野に設置され、それぞれの専門分野での看護実践の探求と研究を目的としています。修士論文を作成します。

■専門看護師(CNS)コース

専門知識・技術と科学的視野を持った専門看護師の養成を目的とし、所定の単位を修得すれば専攻する分野の「専門看護師」の受験資格を得ることができます。

■助産学実践コース

高度実践を行える助産師の育成を目的とし、助産の基礎から学びます。所定の単位を修得すれば、「助産師国家試験」の受験資格を取得できます。

■マネジメント実践コース

高いマネジメント能力を備えた人材育成を目的とし、修了後の実務経験などの条件を満たせば、「認定看護管理者」認定審査の受験資格を得ることができます。

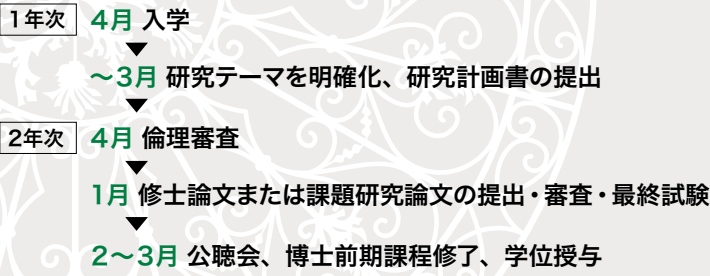


領域	分野	コース
基盤看護学	基礎看護学	研究
	看護技術学	研究
	看護管理学	研究 マネジメント実践
	看護キャリア開発学	研究
	災害看護学	研究 CNS
実践看護学	公衆衛生看護学	研究
	在宅看護学	研究 CNS
	老年看護学	研究 CNS
	ウィメンズヘルス看護・助産学	研究 助産学実践 マネジメント実践
	精神看護学	研究 CNS
	慢性病看護学	研究 CNS
	急性期看護学	研究 CNS
	がん看護学	研究 CNS
	小児看護学	研究 CNS
		CNS

※募集状況については、当該年度の学生募集要項をご確認ください



入学から修了までの基本プロセス (春季修了の場合) ※秋季修了スケジュールもあります



社会人の就学に関する配慮

- 夜間その他の特定の時間または時期において授業や研究指導を行うことができます。
- 職業を有している等の事情により標準修業年限での就学が困難な者に対して、標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的な教育課程の履修を認めています。

※詳細はPI5参照



教育課程の修了要件

研究コース

本課程に2年以上在学して、共通科目を14単位(必修科目3科目計6単位、特別研究6単位、選択科目のうち研究方法科目1科目2単位)以上、専門科目を16単位以上の計30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査および最終試験に合格することを修了要件とする。専門科目16単位については、以下のように履修する。

基盤看護学領域：各専攻分野の基幹科目を10単位、専攻関連科目から6単位以上(ただし、看護キャリア開発学は基幹科目を12単位、専攻関連科目から4単位以上)

実践看護学領域：各専攻分野の基幹科目を10単位、専攻関連科目から4単位以上(ただし、公衆衛生看護学および在宅看護学は基幹科目を12単位、専攻関連科目から4単位以上)

助産学実践コース

本課程に2年以上在学して、共通科目を10単位(必修科目3科目計6単位、課題研究2単位、選択科目のうち研究方法科目より1科目2単位)以上、専門科目を51単位以上の計61単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、課題研究論文の審査および最終試験に合格することを修了要件とする。

専門科目51単位については、助産師指定規則の31単位を含む基幹科目を48単位、専攻関連科目から3単位以上を履修する。

CNSコース

本課程に2年以上在学して、共通科目を16単位(必修科目3科目計6単位、課題研究2単位、選択科目のうち研究方法科目より1科目2単位、臨床薬理学、病態生理学、フィジカルアセスメントを各2単位計6単位)以上、専門科目を専攻分野所定の単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、課題研究論文の審査および最終試験に合格することを修了要件とする。

専門科目について、各分野ともに看護倫理学2単位、専攻分野の基幹科目について、在宅看護学、老年看護学、慢性病看護学、精神看護学、急性期看護学および災害看護学については24単位、小児看護学は26単位、がん看護学は28単位を履修する。加えてCNS共通選択科目(理論看護学、看護管理学、看護教育学、コンサルテーション論、看護政策研究)から4単位以上を履修する。ただし小児看護学についてはコンサルテーション論が分野基幹科目となるため、それ以外の科目から2単位以上を履修する。

マネジメント実践コース

本課程に2年以上在学して、共通科目を10単位(必修科目3科目計6単位、課題研究2単位、選択科目のうち研究方法科目より1科目2単位)以上、専門科目を28単位以上の計38単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、課題研究論文の審査および最終試験に合格することを修了要件とする。専門科目28単位については、看護管理学は基幹科目を24単位、専攻関連科目から2単位以上を履修する。ウィメンズヘルス看護・助産学は基幹科目を26単位、専攻関連科目から2単位以上を履修する。

分野紹介

基盤看護学領域

看護実践の理論的な基礎構築や看護サービスの効果的な組織化のために必要となる知識を提供します。
2023年度から、災害の視点を取り入れた「災害看護学」が加わりました。

■看護技術学分野

コース 研究コース

生活行動の援助を中心とした看護技術の追究

看護技術学では、看護の専門性を表現する根幹となる手段は看護技術であるという前提に立ち、人の生きる力を支援する倫理的な看護技術の開発と普及、臨床の場で実践される看護技術の質の向上を目指します。そのために、看護技術の開発と評価、看護技術の質に影響する教育的要因や組織的要因などを検討課題とします。特に看護の独自の機能である、看護の受け手の自然の回復過程を整える生活行動の援助を中心とした看護技術を追究します。



内山 孝子准教授

■看護管理学分野

コース 研究コース、マネジメント実践コース

看護実践の質を支える看護管理

看護管理は、看護職が看護サービスの対象者により良い看護を提供することを目指して行う一連の活動であり、看護サービスの質を維持、向上するため継続して取り組む看護職全ての人が身に付けておくべき知識・技能です。看護現場のさまざまな課題の解決や看護ケアの質向上につながるよう学問的に探究し、共に議論し考えていきましょう。



中川 典子准教授

■看護キャリア開発学分野

コース 研究コース

自分らしくキャリアを歩むため多角的にアプローチ

看護職者の活躍の場は多様化し、拡大しています。看護キャリア開発学分野では、この多様な看護実践現場で働く看護職者が生き生きとより質の高い看護実践のために活動し、自分らしく看護職キャリアを歩んでいけるよう、看護職個人の発達はもちろん、組織的な課題、看護基礎教育、継続教育の課題といったさまざまな観点からアプローチします。看護実践・教育実践の改革に結び付く研究成果の創出を目指し、共に探究しましょう。



澁谷 幸教授

■災害看護学分野

コース 研究コース、CNSコース

災害の被害を極力抑えるために必要な看護を探究

災害看護とは「災害に関する看護独自の知識や技術を体系的かつ柔軟に用いるとともに、他の専門分野と協力して災害が及ぼす生命や健康生活への被害を極力少なくするための活動を展開すること」です。グローバルな視点から多様なリスクと健康の不公平に着目し、必要な基盤看護とは何かを探究します。博士前期課程は研究コースとCNSコースがあり、博士後期課程はよりグローバルかつローカルに根差した学際的な研究開発が可能です。語学よりも好奇心を重視しています。



神原 咲子教授

分野紹介

実践看護学領域

9つの専門分野に分かれ、それぞれ進化する高度医療や変化する社会情勢、地域ニーズに対応できる看護ケアを研究・開発し、実践活動に生かせる教育研究者や高度専門職業人の育成を目指します。



岩本 里織教授

■公衆衛生看護学分野

コース 研究コース

多様な視点から地域における人々の健康の向上に寄与

公衆衛生看護は、多様なライフステージやさまざまな疾病・障害を持つ方およびコミュニティ(集団・組織・地域)を対象とし、その予防や支援を行うなど、対象や活動範囲が広いです。大学院では、公衆衛生看護活動の可視化や方法論の構築、公衆衛生看護技術の開発、保健師のキャリア開発などの研究を通して実践活動の質を高め、ひいては人々の健康に寄与することを目指します。院生の疑問や関心から研究テーマを検討し、一緒に学びながら研究を進めていきましょう。



丸尾 智実准教授

片倉 直子教授

■在宅看護学分野

コース 研究コース、CNSコース

在宅療養者を多方向から支援する専門家を育成

在宅療養者とその家族のニーズに応じた質の高い治療やケアの提供体制を探究するとともに、地域包括ケアシステムをリードする実践家や教育研究者の育成を目指しています。研究テーマは、在宅における認知症ケア、精神科訪問看護、訪問看護事業所経営管理、新卒訪問看護師育成など多岐にわたります。専門的なケア方法のみならず、在宅療養者の個別性に合わせたケアの開発、在宅ケアでの多職種連携などあらゆる視点から研究を指導します。



秋定 真有講師

坪井 桂子教授

■老年看護学分野

コース 研究コース、CNSコース

高齢者が自分らしく生きるための看護実践を目指す

人生の終盤を生きる高齢者の誰もが、最期まで自分らしく望む場所で生きることを願っています。老年看護学分野では、高齢者の強みや生きる力を引き出し、人生の最期まで自分らしく生きるための意思決定を支えるために必要な高度な看護実践の力を養います。超高齢社会における老年看護学の看護実践に関する研究、ケアを受けながら老いを生きる高齢者に関する研究など、個々が関心のあるテーマに多様な研究方法で取り組めるよう支援します。

■ウィメンズヘルス看護・助産学分野

コース 研究コース、助産学実践コース、マネジメント実践コース

さまざまな助産実践をエビデンスにつなげ女性中心のケアへ

研究コース、マネジメント実践コースでは、助産実践を通して助産師としての技術や助産ケアを深め、エビデンスにつなげる実践研究に取り組んでいます。主な内容は、助産ケアに関する研究、思春期保健に関する研究、更年期女性の健康や月経に関する研究です。また、助産師の資格を取得するための助産学実践コースでは、高度な実践者を目指して多角的に学修し、多くの実習を経験し、助産の臨床実践に関連した課題研究を行っています。



井上 理絵准教授

宮下 ルリ子教授

平田 恭子准教授

■精神看護学分野

コース 研究コース、CNSコース

心の健康に関するあらゆる実践や研究に取り組む

心の健康課題や精神疾患を経験した人とその家族への支援、身体疾患患者の「こころのケア」、看護職のメンタルヘルス、精神看護専門看護師の実践など、心の健康に関連する幅広い研究や実践を支援します。臨床現場での課題を解決したい、最新の知見を学びたい、高度な看護実践を身に付けたい、専門看護師として組織に貢献したいという人は、一緒に学びましょう。一人ひとりのこれまでの経験や関心を大切にしながら指導しています。



船越 明子教授

田中 晴佳准教授

■慢性病看護学分野

コース 研究コース、CNSコース

慢性病患者のスムーズな局面移行を支える看護能力を養う

慢性看護の願いは、慢性の病を抱える人の幸せと健康です。同じ病気でも、その向き合い方やマネジメントの方法は多岐にわたります。慢性病患者と共に生活する人の伴走をしながら病のマネジメントやエンドオブライフについて考え、それぞれの状況に応じた看護を行う能力を育成します。CNSコースでは、段階的な実習を通して高度看護実践力を育成。研究コースでは、学生が探究したいテーマに沿って研究が進められるようサポートします。



畑中 あかね講師

池田 清子教授

■急性期看護学分野

コース 研究コース、CNSコース

高度なアセスメント能力を育み看護の在り方を探る

クリティカルケアを必要とする患者や家族は、高度な臨床判断に基づく生命危機からの回復に向けたケアとともに、あらゆる苦痛を緩和するためのケアが求められます。そのため、急性期看護学分野ではシミュレーションを取り入れた高度なアセスメント能力の育成や、ケアリングを基盤とした看護の在り方の探究を行っています。高度な臨床実践能力を身に付けたい人、急性期におけるケア開発やケアの意味の探究などを研究したい人をお待ちしています。



佐藤 隆平准教授

森山 美香教授



高山 良子講師

井沢 知子准教授

■がん看護学分野

コース 研究コース、CNSコース

がん患者と家族のQOLを高める看護実践を追究

がん看護では、診断期をはじめとする各ステージにおいて、AYA世代、子育て世代といった多様なライフステージを考慮し、患者と家族の苦悩や課題解決のために全人的、倫理的、科学的視点から援助が必要です。的確な臨床判断と心理社会的苦痛の理解により、患者と家族のQOLを高め、がんを患っていてもその人らしい生き方ができる看護実践を探究します。CNSの取得、ケアの開発、地域におけるがん看護の質の向上に関する研究を希望する人をお待ちしています。



二宮 啓子教授

山本 陽子講師

■小児看護学分野

コース 研究コース、CNSコース

家族機能や社会システムから子どものケアを考える

健康問題を持つ子どものケアを家族機能や社会システムの次元から捉え、子どもと家族の相互関係を踏まえた複雑で高度な看護ケアの在り方を、理論的かつ実証的に追求する分野です。研究成果を看護実践の変革につなげるとともに、後進の教育を担う人を育成する研究コースと、複雑な健康問題を抱える個人や集団に臨床判断に基づいた高度な看護実践を行い、多職種と連携してより効果的にケアするための調整ができる高度専門職業人を育成するCNSコースがあります。

院生の学びを全力でサポート！



図書館

閲覧席142席、個人用閲覧席「キャレル」6席のほか、プロジェクターやホワイトボードを使ってグループ学習や研修ができる「ラーニングコモンズ」を2室備えています。資料は医学・看護系を中心に約10万冊所蔵。一般書や視聴覚資料なども含め幅広く収集しています。院生の学習において文献を入手することは非常に重要なことから、図書や雑誌のほか「Pro Quest」「医学中央雑誌WEB」「メディカルオンライン」「Medical Finder」といった電子データも、学内はもちろんインターネットを通じて学外からも利用できます。上記の方法で入手不可能な論文等は、図書館から各機関に複写依頼をすることで取り寄せることも可能です。また、「文献を検索したことがない」「使い方が分からない」という人のために、年度の初めには外部講師を招いた「文献検索講習会」も開催しています。



国際学会発表・参加奨励制度

国際的な視野での看護の課題探究や学術的視野を広げるため、海外で開催される学会での発表や参加について参加費と旅費の助成を行う制度です。発表者は全額、参加のみの場合は限度額内で支援しています。

大学院特別講演会

大学院生を対象に、年2回、外部講師を招いた特別講演会を開催しています。うち1回はさまざまな研究法に関する専門性の高い内容について、もう1回は院生からの要望や社会的背景などを踏まえ、見聞を広め多様な学びにつながるようなトピックを選んでいきます。

【過去のテーマ】

- 2023年度 ●ICN2023でみた世界の看護の動向 ●現場感のデジタルトランスフォーメーション(DX)
- 2024年度 ●看護の専門性と専門職連携 ●質的研究について

Student Voice



研究の面白さに目覚め転職を決意しました

野間 光佑
看護学研究科
博士前期課程
小児看護学専攻
研究コース

兵庫県立こども病院から神戸市内の病院に移った際、救急外来で子どもの患者さんの対応に苦勞する看護師が意外と多いことを知り、改善策を見つけないと大学院に入りました。まずは研究のアプローチ方法など必要なノウハウを学んだ上で、小児科と救急でどのように連携を図るべきかをテーマとし、全国の病院に調査票を送って結果を分析しています。研究と向き合う中で一つのことを掘り下げていく面白さに目覚め、もっとテーマを広げて突き詰めてみたいと大学教員に転向して研究を続けることを決意しました。看護の分野は男性が少ないですが、性別に関係なく多くの仲間恵まれ、それぞれの専門分野の話が聞けるのもいい刺激になっています。



実習でCNSの巧みな仕事術を学べました

須田 千春
看護学研究科
博士前期課程
がん看護学専攻
CNSコース

外科病棟からコロナ病棟に移った時、患者さんと物理的だけでなく心理的にも距離を感じ、「看護とは何だろう。もっといい看護がしたい」という思いが生まれ、休職して学部時代に学んだ母校に戻ってきました。授業を通して、がんと共に生きる患者さんに寄り添うには、思い込みにとらわれずきちんと対話することでその人の希望を感じ取り、それに基づきケアの方針を立てチームで共有することが大事だと分かりました。実習では、CNSが一つ一つの出来事をどのように捉えどう判断し、誰にどのタイミングでどう伝えているかを具体的に知ることができたのが大きな収穫でした。そのために必要な知識や技術、姿勢を身に付けていきたいです。



実習により深い理解が得られました

山下 宮子
看護学研究科
博士前期課程
看護管理学専攻
マネジメント
実践コース

勤め先の病院で教育責任者を務めた時に、統計を出したりマネジメントに関する報告書などを作成したりする機会が多々あったのですが、知識やノウハウがなくて苦勞しました。院内でのプレゼンや交渉の場においても根拠や背景を示せないと言得力がないため、大学院で一から勉強しています。実習では、変革理論を用いた組織の管理法などを学びました。授業を受けた上で現場に入ると、これまで深く考えずにいた一つ一つの仕事に対する考え方について、よく理解することができました。大学院に入らないと知り合えなかった仲間に出会い、他の病院の話なども聞いて参考になります。修了後は、ここで得たことを職場でしっかり生かしたいと思っています。



自ら考え動ける助産師を目指します

岩渕 萌唯
看護学研究科
博士前期課程
ウイメンズヘルス看護・助産学専攻
助産学実践コース

神戸市内の大学を卒業後、助産師になるために進学しました。実習期間以外はほぼ毎日学内にいます。授業のない時にもグループワークの相談をしたり、分娩助産などの実技練習をしたりと、仲間と過ごす時間は長く、ハードな日々を励まし合い乗り越えてきました。臨地実習は同じ施設で継続して実習ができるため、指導者の方との関係も築きやすく、深い学びを得ています。また、学生が主体となって取り組む「プレババ・プレマセミナー」では、もうすぐ親になる夫婦を対象として健康教育を行い、貴重な経験ができます。先生方からは、理論だけでなく助産師としての心構えも教わっているので、それらを基に自ら考え動ける「自律した助産師」を目指したいです。

博士後期課程



教育理念

本研究科博士後期課程は、看護学分野での理論的基盤の構築を目指す研究や実践志向の研究を自立して行い、地域社会および看護学の発展に貢献することのできる教育研究者、管理者の育成を使命とする。

教育目標

本研究科博士後期課程は、論理的な思考と柔軟な発想、グローバルな視野で看護学の研究、看護の実践モデルや提供システムの開発を独自に進めることができる教育研究者、管理者を育成する。

2領域で高度かつ専門的な学びを提供

2つの領域

■看護基盤開発学領域

看護実践の本質を探究し、看護学の理論的基盤の構築を目指します。また、変化する社会の要請に応える看護の組織化の在り方とそれを支える看護職者のキャリア開発を追究します。

■看護実践開発学領域

さまざまな臨床臨地の看護実践における新たな看護支援方法の開発とその理論化、検証を目指します。

入学から修了までの基本プロセス

1年次 4月 入学

10月 博士論文の研究課題を明確化

2月 副研究指導教員の決定

3月 研究計画書の提出

2年次 4月 博士論文研究計画書発表会
審査・倫理審査

5月 病院等調査施設の倫理審査を受け、研究開始

3年次 4～8月末 博士論文の予備審査

11月 博士論文の提出

12月 博士論文の審査・最終試験

2月 合否判定・修了判定

2～3月 博士論文発表会
博士後期課程修了、学位授与

※研究計画書、博士論文については毎月提出可

指導内容

領 域	専攻	教員氏名	研究指導可能内容
看護基盤開発学	グローバルヘルス・災害看護学	教授 神原咲子	●プラナタリーヘルス・グローバルヘルス視点からの災害管理や気候変動適応への学際的アプローチ ●グローバルな健康危機管理に関わるコミュニケーションとケアに関する研究 ●災害リスク削減とグローバルヘルス向上のための適応に関する研究 ●SDGs達成にむけたリスク社会の構造と看護の変化に関する研究
	看護キャリア開発学	教授 澁谷幸	●看護基礎教育の内容や方法に関する研究 ●看護継続教育、人材育成等の内容や方法、プログラム開発に関連する研究 ●看護職のキャリア開発に関する研究
看護実践開発学	公衆衛生看護学	教授 岩本里織	●保健師の公衆衛生看護技術に関する研究 ●保健師活動(母子保健、成人保健、高齢者保健、感染症・精神、ヘルスプロモーション等)に関する研究 ●公衆衛生看護活動評価に関する研究 ●保健師の基礎教育・現任教育、キャリア形成等に関する研究 ●公衆衛生看護倫理、コミュニティにおけるケアリングに関する研究
	在宅看護学	教授 片倉直子	●精神疾患をもつ訪問看護利用者および家族へのケアに関する研究 ●訪問看護ステーションにおける運営管理に関する研究 ●訪問看護利用者へのケアに関する研究 ●社会復帰通所施設の利用者への看護に関する研究
	老年看護学	教授 坪井桂子	●高齢者と家族の看護方法に関する研究 ●認知症と共に生きる高齢者と家族への援助方法の開発 ●高齢者看護の実践能力の育成に関する研究 ●高齢者ケア施設に働く看護職の支援に関する研究
	ウィメンズヘルス看護・助産学	教授 宮下ルリ子	●女性の各ライフステージ(思春期・性成熟期・更年期・老年期)の視点から健康概念を基にした研究 ●女性の健康支援に関する研究(生活習慣病、骨粗鬆症、ロコモティブシンドロームとフレイル等) ●周産期メンタルヘルスに関する研究 ●ウィメンズヘルス看護・助産教育における教育技法に関する研究(シミュレーション学修等)
	精神看護学	教授 船越明子	●精神障害をもつ人々や家族への看護援助に関する研究 ●身体疾患患者への精神的ケアに関する研究 ●地域住民のこころの健康の維持・増進に関する研究 ●ケア提供者のストレスおよび精神的健康に関する研究 ●精神看護の実践能力の向上に関する研究
	慢性病看護学	教授 池田清子	●慢性病とともに生きる人のセルフケアを支える看護に関する研究 ●慢性病とともに生きる人のレジリエンスに関する研究 ●慢性病者への看護援助プログラムの開発と評価に関する研究 ●慢性病者のフットケアに関する研究
	急性期看護学	教授 森山美香	●周手術期看護に関する研究 ●クリティカルケア看護における倫理的課題に関する研究 ●クリティカルケアを必要とする患者のComfortに関する研究 ●クリティカルケアにおける家族看護に関する研究
	小児看護学	教授 二宮啓子	●生活習慣に関連した健康障害をもつ学童・生徒のヘルスプロモーションに関する研究 ●慢性疾患患児と家族の療養生活支援に関する研究 ●学校における医療的ケアを実施する看護師の役割と他職種連携に関する研究 ●検査を受ける子どもへの効果的なプレバレーションに関する研究

※募集状況については、当該年度の学生募集要項をご確認ください

Student Voice

授業以外にも多くの学びの機会があります

諏訪 亜季子

看護学研究科 博士後期課程 看護実践開発学領域

訪問看護師として働く中で、重症児の母親を支えたいと考えるようになり、他大学の前期課程で重症児の母親の実態を調査しました。その後、テーマを多重介護に広げ、大学教員に転職していちかんの後期課程へ。指導教員の二宮啓子先生には「社会にとって必要であなたの経験があってこそできる研究」と背中を押していただくとともに、思うように進められない時には学生のペースに合わせて伴走していただき感謝するばかりです。OBや関係機関を交えた勉強会を定期的に開いてくださり、最新の情報を得る機会にも恵まれています。また、大学院全体で年2回、学外から講師を招いての特別講演もあり、他の大学院では聞けないような各分野の第一人者のお話に毎回感銘を受けています。



学んだ理論や考え方が 職場でしっかり生きています

佐藤 恵美さん

看護学研究科 博士前期課程
看護管理学専攻 マネジメント実践コース
2021年度修了
神戸市立医療センター中央市民病院
看護師長、認定看護管理者



看護師長を務める中で、仕事がつらそうに見えるスタッフがいることに問題を感じ、全員が生き生きと働ける職場にしたいと思い、大学院に入りました。仕事との両立は想像以上に大変で修了まで4年かかりましたが、学んだ理論はしっかりと現場で生きています。例えば、チームの在り方をビジョンとして掲げたことでスタッフの意識が同じ方に向かうようになり、手応えを感じ始めています。先生方からは何事にも思い込みを捨てて向き合う重要性など物事に対する捉え方も教わり、これまでの自分の考えを改めるきっかけにもなりました。

学問だけでなく将来を考える 貴重な時間でした

杉原 真理さん

看護学研究科 博士前期課程
看護キャリア開発学専攻 研究コース
2020年度修了
産後ケアハウス杉原 hare 代表



助産師として県内の病院に勤めていましたが、そのまま働くことに疑問を感じ、「将来的なキャリアを見つめ直そう」と退職して大学院に入りました。授業の中で「キャリア・アンカー」という理論に出会い、それが産後ケア施設を開業するという新しい生き方を決意するきっかけとなりました。指導教員の先生には、在学中はもちろん修了後も開業に向けて応援していただき、感謝の言葉しかありません。大学院で過ごす時間は、学問に取り組むだけでなく、自分の将来を見つめるいい機会でもあります。先生や仲間など多くの人たちとの出会いが、今も私を支えています。

前期課程で残した課題を やり遂げることができました

多田羅 光美さん

看護学研究科 博士後期課程
看護実践開発学専攻
2020年度修了
香川県立保健医療大学保健医療学部看護学科、
同大学院保健医療学研究科看護学専攻 講師



看護師をしていた時、精神科のナースが他の科に比べて精神的に疲弊していることに疑問を感じ、他大学の前期課程で研究に取り組みました。それを発展させるため教員に転職していちかんの後期課程へ。ゼミでは先生や仲間とディスカッションを重ねて精神科のナースが前向きに働くための教育プログラムを開発し、成果が得られました。研究を通して出会った人々とは、現在も交流が続いています。仕事や子育てをしながら県外から通学するのは大変でしたが、授業やゼミはできるだけ同日にしていたで、最後までやり遂げることができました。

個人だけでなくチームの皆で 高め合う必要性を学びました

宮井 輝海さん

看護学研究科 博士前期課程
急性期看護学専攻 CNSコース
2018年度修了
神戸市立西神戸医療センター
急性・重症患者看護専門看護師



看護師になった時からCNSを目指しており、整形外科と集中治療室を経験した後、勤め先の教育支援制度を利用して2年間休職して大学院で学びました。最初は個人的なスキルを高めるのが目的でしたが、授業を通してチームの皆で高め合う必要性に気づき、そのためにどうすればいいか一歩引いて客観視できるようになり、自分自身の成長につながりました。さまざまなケースを想定して行われたシミュレーション演習も、復職後、現場で役に立っています。また、専門的な知識や技術以外に看護全般の新しい視点が生身に付くのも、魅力の一つだと思います。

長期間母子と関わったことで 助産師のやりがいを感じました

杉本 紗莉那さん

看護学研究科 博士前期課程
ウィメンズヘルス看護・
助産学専攻 助産学実践コース
2020年度修了
市立福知山市市民病院 助産師



助産師になるため、いちかんの学部から大学院に進学しました。実習が1年目しかない大学院が多い中、2年目でもあるのが選んだ理由の一つです。もちろん研究にも取り組まないといけないので忙しい日々でしたが、その分得られるものも多く、充実した時間が過ごせます。実習では、妊娠期から出産、さらには退院後まで長期にわたって母子に携わり、助産師のやりがいを実感しました。また、選択授業の「国際助産活動論」では、ラオスの病院を訪問して出産に立ち合い、日本とは異なる出産に対する考え方や手法を知ることができたのも貴重な経験です。

2024年度 大学院修了生進路状況

医療機関

- 神戸市民病院機構
- 兵庫県立こども病院
- 神戸大学医学部附属病院
- 近畿大学附属病院
- 済生会兵庫県病院
- 聖隷浜松病院

教育機関

- 神戸市看護大学
- 久留米大学医学部看護学科
- 金沢医科大学看護学部看護学科
- 園田女子大学人間健康学部人間看護学科

学費・修学支援

学びへの意欲を応援するため、学生生活を経済面からサポートするいちかん独自の授業料減免制度や一般の奨学金制度などがあります。

学費(入学金・授業料)

区分		金額	
入学金		神戸市内者※	神戸市外者
		297,000円	423,000円
授業料	前期	267,900円	
	後期	267,900円	
	年間	535,800円	
合計		832,800円	958,800円

※入学日の1年前から引き続き神戸市内に住所を有する者と、神戸市住民の配偶者またはその2親等内の親族を指します

修学支援

■奨学金

※その他の奨学金の募集はその都度お知らせします

日本学生支援機構奨学金

本学で選考の上、日本学生支援機構に推薦します。

種類や金額は、日本学生支援機構ホームページで確認してください。

看護学生修学資金

神戸市民病院機構が行っている修学資金貸与制度で、修了後に神戸市民病院機構に勤務する意思がある大学院生が対象。修了後、神戸市民病院機構に就職し、一定期間勤務した場合は返還が免除されます。

■授業料の減免制度

授業料の納付が著しく困難な学生に対しては、減免または納付猶予の制度があります。詳細は、教務学生課へ問い合わせてください。

■健康管理・メンタルヘルス

学生の健康管理のため、年1回の定期健康診断を行っています。また、保健室では個別の健康相談、併設する相談室では専門の臨床心理士による個人的な悩みの相談などにも応じています。

入試情報

一般入試のほか、2023年度入試から推薦入試制度を創設しました。

推薦入試

■募集区分

博士前期課程(8人以内)

※助産学実践コースを除く

●対象者

機関推薦…保健医療福祉施設の
看護師・助産師・保健師
学内推薦…本学の看護学部4年生

博士後期課程(1人以内)

●対象者

本学の博士前期課程2年生

■選考方法

面接試験、出願書類により
総合的に判断



入試概要
(推薦・一般)



募集要項
(推薦・一般)



科目等履修生
募集



研究生募集

ACCESS

■学園都市駅までの交通アクセス

【神戸三宮方面から】

神戸市営地下鉄西神・山手線「三宮」駅から「学園都市」駅下車(約25分)

【姫路方面から】

JR「舞子」駅から神戸市バス53系統または54系統「学園都市行き」に乗り

「学園都市駅前」下車(約35分)

JR「新長田」駅で神戸市営地下鉄西神・山手線「新長田」駅に乗り換え
「学園都市」駅下車(約13分)

